

日赤の創始者、佐野常民を生んだ佐賀県の高校生の皆さんへ！

献血の仕組みと大切さを学ぼう

【1】献血の仕組み

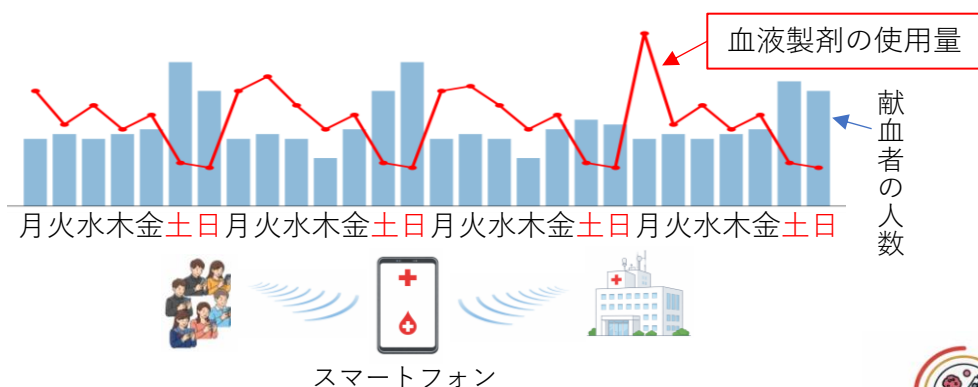
What's KENKETSU? ～よくわかる献血のはなし～【日本赤十字社】

・献血は健康な人が少しだけ血液を無償で提供し、誰かの命を助けるボランティアです。

【2】献血を支える情報システム ーラブラッドー

献血の新しいカタチ ラブラッド【日本赤十字社】

- ・医療に必要な血液製剤の量は日々変動し、災害などによる急な増加に備えた備蓄が必要です。
- ・しかし血液製剤は「生きた細胞」です。血小板製剤は6日間、赤血球製剤は4週間しか保存できず、無制限に備蓄を増やすことはできません。
- ・そのため需要に合った量の血液を毎日「過不足なく」献血していただくことが必要です。
- ・そこで献血者と日赤をつなぎ、献血を支えるための情報システムが準備されています。



【3】献血に支えられたアスリートたち

- ・競泳の池江璃花子選手は急性リンパ性白血病を発症しました。
- ・治療には大量の抗がん剤や骨髄移植、そして輸血が必要でした。
- ・特に骨髄移植前後では多くの赤血球や血小板の輸血を受けました。
- ・赤血球製剤・血小板製剤はすべて献血から造られます。
- ・多くの献血者に支えられて治療が継続できました。



あなたの贈り物は、私たちの未来でした【日本赤十字社】

- ・巨人の大勢選手は幼少期に川崎病を発症しました。
- ・川崎病の標準治療は免疫グロブリン静注療法（IVIG）です。
- ・免疫グロブリンは献血した血液から造られる血漿分画製剤の一つです。
- ・IVIGによって大勢選手は後遺症をおこすことなく回復することができました。

